

野党時代から燃えていた野田

★首相・野田佳彦は10日に行う予定だったTPP参加表明の記者会見を「1日ゆっくり考えさせてほしい」と今日11日に延期すると発表した。

野田のTPP参加の前のめりぶりはいささか首相の対応とはいえないと思われたが、10日付のしんぶん赤旗に、まだ野党時代の野田が08年11月28日の衆院外務委員会と興味深い質問をしていると記している。

★一部を抜粋すると野田は「今回出てきたTPP、シンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの4カ国に加えて、オーストラリア、

敬称略

政界地獄耳

ペルー、そしてアメリカも入って7カ国、APECの21の国・地域のうち、3分の1がこの環太平洋FTAに入って存在感が出てきていますよね」。それに当時の外務副大臣・伊藤信太郎は「日本政府としては、この協定を巡る動向を大変高い関心を持っておりまして、(中略)現在のところ日本として参加するかどうかに関して結論はまだ出しておりません」と答弁している。野田は野党時代、かなり早くからTPP参加に意欲を燃やしていたことが分かる。

★この期に及んで参加の考えが揺

らぐとは考えにくい。民主党議員は「幹事長・興石東あたりから1日置いて熱慮のポーズをとれと言われたらどう。なにしろ興石は4日間の会期を突然2日延長するようなことをやる男。そんな発想だろ」。新党日本代表・田中康夫は「あまりにも野田の対応はひどい。議運で否決されても議会の超党派200議員の署名がある。党の意見を重く受け止めるのではなく、議会の声に耳を傾けるべきだ。民主党のキャッチフレーズは『国民の生活が第一』ではなく『米国の機嫌が第一』だし、『1つ1つ乗り越えていく』は全く1つ1つ崩れていく』に変えるべきだ」と指摘している。

(K)